

2016年8月1日

四日市市
市長 田中 俊行 様

日本野鳥の会三重
代表 平井正志

四日市足見川メガソーラー予定地についての要望

四日市小林町周辺の山林にメガソーラー計画が進んでおり、条例による環境影響評価が行われています。

四日市から鈴鹿にかけての丘陵地の山林は、高度成長期以降、住宅、ゴルフ場、工場、道路の建設などで細分化され、面積も極端に減っています。これ以上減らすことは里地里山の生態系を根本的に破壊することになります。特に今回の計画のように大面積をパネルで覆い、樹木、草地をなくす計画は生態系にとって、きわめて深刻であります。

当該計画予定地では、今年猛禽のサシバの繁殖行動が観察されました。営巣地は予定地内の山林であり、6月5日以降継続的につがいが観察され、餌運びも確認できました。

この地域には2009年6月13日および2013年5月12日にもサシバが観察されているので、これまでこの地域ではサシバが永続的に飛来、繁殖していたものと推定されます。

サシバは全国で減少が著しく、絶滅危惧種（三重県 EN， 環境省 VU）に指定されています。現在、県内における繁殖地はごく限られています。当該計画地は、水田に隣接した山林でサシバの繁殖に良い環境が保たれています。

また、オオタカ（環境省 NT， 三重県 VU）については、6月27日予定地内の山林および足見川沿いの水田で狩りをするつがいが観察されています。このつがいは、かつて環状線建設予定地に営巣しており、その後営巣場所が移動しているつがいと考えられ、本年は当該計画予定地周辺で繁殖し、予定地は狩場となっていると推定されています。オオタカは三重県内では低山帯に生息するが、安定した繁殖地はごく少ないのが現状です。サシバ、オオタカの2種とも繁殖地が少なくなっており、繁殖地を保護すべき鳥類であります。

さらに、7月にはチョウゲンボウがしばしば観察されています。

当該予定地は、かつてアカマツなどの山林とその中に茶畑などの農耕地が点在する典型的な里山であったと思われます。現在はスギ・ヒノキ植林が多いが、部分的には広葉樹の二次林がある他、林縁にも広葉樹があり、植生の多様性が保たれています。

鳥類の調査は十分にされていないが、サシバが繁殖し、周辺にオオタカの繁殖域があることから、猛禽類を頂点とする里山食物連鎖が維持されていると考えられます。

里地里山は、人々の生活の場であると共に動物たちの生息の場でもあり、多くの野鳥たちが繁殖しています。

こうした里山里地の環境を好んで繁殖する種、絶滅危惧種であるサシバやオオタカにとっては欠かせないフィールドであり、環境破壊をすべきではありません。四日市、鈴鹿、津周辺は、開発が進行し、この種の里地里山が激減しており、これ以上の開発は避けるべきで貴重な生態系を守っていただきたい。

当会はこの生態系を保護したいと考えています。自然環境保全に関し、ややもすると遅れている当県ですが、これを機会に先進的な取り組みを是非推進してください。

要 望

- 1) 当該ソーラー予定地を全面的に里山生態系保全区として保護してください。そのためには、予定地におけるソーラー事業は中止すべきとの意見を表明していただきたい。
- 2) 里山の自然は、四日市市民にとっても環境教育などで必要であり、豊かな自然を持つことは市民としても誇りになります。生態系保全のために、予定地周辺水田も含め、積極的保護策をとっていただきたい。
- 3) 四日市市では、これまで工業優先の施策が行われ、周辺の里山は工業用地造成、道路建設等により破壊されてきました。今再び貴重で広大な里山を破壊してしまうのは、四日市行政に重大な汚点を残すことになります。条例などを設定し里山の保全を図っていただきたい。
- 4) 当該ソーラー建設による雇用や税収の増加などの期待は微少であり、地域住民にとって害があってもメリットが少ない事業と思われます。是非事業の中止をお願いしたい。

以上